

平成 29 年度 日本臨床工学技士連盟 理事会議事録

日時：平成 29 年 2 月 25 日（土）14：00～17：00

場所：四谷メディカルキューブ会議室

出席者：肥田泰幸 門田明正 熊谷誠 浦波智 関川智重 小林剛志 山下芳久
高山享 田村守啓 三井友成 小峠博揮 清正夫

オブ参加：小林力

欠席者：安部貴之 高橋満彦 長尾尋智 五条敏和 山崎康祥 山田佳央

1. 開会挨拶（田村事務局長）

2. 理事長挨拶（肥田理事長）

これより平成 29 年度日本臨床工学技士連盟理事会を開催する。

3. 議案

（ア）決算報告及び予算案（田村事務局長）

① 平成 29 年度予算及び活動方針

各政治団体パーティー、政治セミナー 1 2 回参加、各都道府県臨床工学会などで理事長より PR 活動、参議院選挙活動を行った。

活動内容はホームページで参照できるように他団体を参考に情報掲載を行っていく。

② 平成 28 年度会計決算報告及び会計監査報告（資料参照）

収入の部：平成 28 年収入は、カード、SmartPit、寄付、利子で ¥1,809,675 の収入となった。（¥500,000 の借入金含む）

支出の部：今季支出は ¥1,410,128。前期繰越し金を合わせて ¥882,681 となります。

支出内訳として会議諸費 ¥329,105、旅費交通費 ¥391,120、通信費 ¥71,131 事業費 ¥194,400、参加費 ¥390,000、備品・消耗品費 ¥29,404、振込手数料 ¥4,936、合計で ¥1,410,128 となります。

③ 監査報告（高山監事）

2016 年適正な運営と判断し、理事会にて収支報告が承認された。

④ 収支計算書に関わる意見

- ・ 総会での公表となると、手数料と分けた金額を問われることもあるので、会員収入は ¥3,000 かける人数として手数料を別記入にし、合わせて領収証との金額が合っていることを説明するようにする。

- ・ 現金収入は今期はなし。
- ・ 寄付金について、振込みだけだとどこからかわからない場合があり通帳を銀行へ確認する必要がある。様式を作成するなどの検討が必要と思われる。
- ・ 年末にスマートピット会員へ通知を250名ほど出して、80名くらいの回収があった。
- ・ スマートピット会員とカード会員の違いについて、スマートピット会員に毎年振込みをお願いしても自動引き落としのように継続的でないと会員数の保持につながらない。

カードを持っていない会員もいて、原則として銀行引き落としだったが印鑑をついて送り返さないことが多く、口座引き落としの希望者も少なかった。また口座管理料がかかり負担となっていたのでコンビニ払いに切り替えた経緯がある。

日臨工で一括徴収して振り分ける方法もあるが諸般の事情により難しい。また学会等での受付時に大量申し込みがあると対応できなくなる。

学会や地方工学会で入会を促しても次の年に反映しないというところでは大きな課題であるので検討していく。

⑤ 収支予算計算書について

- ・ 会員増を目標として会費増もあり会員収入を多めにしている。
- ・ 政治的要因によって予算編成が大きく異なっていく。

(イ) 総務

① 青森大会の計画について

- ・ 会員入会に向けブースの設置を申込済みだが返答はまだ。

② 総会開催案について

- ・ 一般会員向けの総会を計画する。
- ・ 何を目的とした総会であるのかを明確にして、収支報告、定款や事業内容の検討など締め日をもとに整合性を取れるようにしていく。

締め日は年末なので委任状をもらって2月に理事会と合わせて総会を開くのが望ましい。

委任状の回収率と総会成立のラインをどこに定めるかも課題である。

日臨工と日程の解離があるので、今後は日臨工や地方工学会とも連携をとっていくのが望ましい。

総会は2月に行って5月の日臨工時に承認し、政治規制法で12月31日

と決まっているので3ヶ月以内に決算・事業報告を考慮し2月に行うのが望ましい。

意見をもとに他団体等の調査し計画を進めていく。

③ 規約及び組織運営規定の改定について

- ・ 宿泊費は昨今の価格高騰により上限¥10,000を¥15,000へ変更する。
- ・ 旅費の領収書について可能な限り原本で提出をお願いし、ネット予約の印刷・PDF・写真等でも領収として確認できる方法で引き続き受け取りをする。
- ・ 総会を計画していく中では、飲食代等の経費の計上記載については慎重を要する。
- ・ 青森での大会中に連絡会議会場を17:00～17:30で取り行い、理事会として収支、活動内容等の報告について各都道府県役員や担当者、会員をたくさん集め意識付けの強化を図る。開催についてメーリングリストを活用し担当窓口から技士会役員へ報告してもらう。

(ウ) 組織 (小峠理事)

組織数の現状と今後について

- ・ 月別入会者数推移、延べ人数、都道府県別入会者数より5月の日臨工開催で時期と秋口の各地方ブロック大会で入会者が増加しており、未入金者も含み現状で1000人を超えており今後も維持したい。
- ・ 都道府県別では日臨工会員数に対する割合も今後データ化していくが、日臨工未入会者が入会している場合や企業の方もおり、現在グラフには含めていない。
- ・ 平成28年10月九州臨床工学会にて連盟ブースを設置し勧誘活動を行う。また、学会内で野田毅衆議院議員の講演を取り行う。
- ・ 平成28年11/24筑豊地区透析交流会にて勧誘活動を行う。
- ・ 平成29年2/11福岡県臨床工学技士会所属長会議にて肥田理事長招致し連盟について職能団体とは何かと説明を行った中で、肥田理事長への意見として連盟に入ってもメリットがないとの意見に終始し、現状の組織活動に似通っていた。直接還元的な損得にこだわらず理解を得るのは難しい。
- ・ 入会方法や会費支払方法について、入会意志が確認できた後は継続的に離さないようにしなければならない。
- ・ 自分の意思で入会した会員は少なく中間管理職や所属長から言われて入

会するパターンしかないので所属長に訴えることが鍵となることを強く感じている。また、日臨工や都道府県技士会で集めて連盟に回す意見もあったが政治資金規正法で団体からの資金移行が禁止されている。ただし、個人の同意を取って連盟会費を徴収するのは可能である。

(エ) 渉外 (小林理事)

- ・ 選挙活動に関しては小林オブザーバーが参加した。
- ・ 政治パーティーについては日付が決まっているので企業などでは席も前の方をとって顔を売っており、議員の秘書をおさえて顔を覚えてもらえることも重要になるので、年間計画を立て連盟でもいける人間を計画的に人数割していき、予算もあるが積極性を保てるように再検討を図っていく。
- ・ 他団体では母体の会長が参加している。また20万円以上の寄付をすると政治資金報告書で記載しなければならなく名簿に名前を残せるので出席だけでは意味がないとの意見もある。
- ・ 畦元さんに対しては中四国の衆議院で立つと言われているが、今後の対応を慎重に検討していかなければならない。今回の選挙の内容に関しては勉強になることが多かった。
- ・ 「21世紀を医療・介護・福祉を支える会」は畦元さんを支える会でもあり理事も出しているが、放射線技師会と放射線技師連盟の連携ができていない感じがあり、畦元さんが当選する確信が得られない中では、4団体で改めて協議をして推薦する方を決めていくのであれば考えられるが、畦元さんありきでは降りるべきと判断する。
- ・ 会員数の増加に関して20~30年先を見越して何の恩恵も受けられない資格になると訴えてはいるが、神奈川県技士会理事でも理解がされていない人が多い中で一般の会員を引き込むのは非常に難しい。メリットを明確に統一した見解で示す必要がある。技士連盟の活動自体を考え、会員のための政治活動の勉強会が必要である。会員に浸透していないのが感じられる。

(オ) 選対

- ・ 東京都議選について、公明党公認候補者の推薦決定通知書へ署名し提出することとする。政治的取引として人事院勧告への記載を含み、自民党からの推薦状も来ると思われるが自民公明とも縦割りがうまくいっているので自公共に推す。

- ・ 臨床工学技士は行政立法でできた資格であることを多くの若い世代は知らず、他職種において医師・薬剤師・看護師以外は全て議員立法で成立した資格で議員を動かしてできた意味合いがあり会員へ説明しないといけない。

(カ) 学修

- ・ 連盟主催で学術的な話を進める。
- ・ 日臨工組織委員会と連盟で組織強化を共同して各都道府県役員を集合させて組織を高め啓発する学習会の開催を日臨工へ依頼している。

(キ) 広報

広報物の発行とスケジュールについて

- ・ 連盟新聞の発行を予定しているので記事の原稿について協力を願う。
- ・ 日本臨床工学会で連盟 PR のブースを設置する。
- ・ 秋の地方学会ではそれぞれの理事による企画を
- ・ メールマガジンは業者に依頼すると費用がかかる。

(ク) 青年

次回持ち越し

(ケ) 事務局

① 事務局増員について

東京医科歯科大学臨床工学士の後藤氏を事務局員として参入いただく。

② 日臨工との協力体制について

- ・ 青森大会での総会以降で日臨工役員体制が大きく変化すると思われる中だが、日臨工内で連盟事務局の設置を継続して依頼する。
- ・ 設置できない理由としてビルオーナーが政治活動に対し非協力的である。

③ 年々宿泊施設の費用増となり連盟理事会の地方開催も考慮する

- ④ 睡眠時無呼吸症候群症候群 (SAS) の診断を確定するためのポリソムノグラフィー (Polysomnography:PSG) 検査の日本睡眠学会認定資格取得条件において、臨床工学技士を除くという内容について訂正を求めている。生理学検査は臨床工学技士が関われないという背景が関与している。

4. 閉会